

## 2026年度 立命館大学大学院「学生学会奨学金」募集要項

### はじめに

本奨学金は、本学大学院生が、学会への参加または学会での研究成果の発表を奨励することを目的としています。以下の記載を確認し、所定の手続きにて本奨学金を申請してください。

### 1. 申請の流れ

- ① 大学院生：学会参加・発表をする。
- ② 大学院生：提出書類を揃える。
- ③ 大学院生：Ri-SEARCH システムに、参加・発表した学会情報を登録し、本奨学金を申請。
  - ✓ 指導教員に、本奨学金の申請と学会参加・発表の報告について、電子承認を受ける。
  - ✓ 他の研究費と合算する場合、合算先で必要な書類や提出方法を指導教員に確認し、合算先が指定する必要な書類を、合算先が指定する申請窓口<sup>④</sup>に提出する。
- ④ RARA オフィス：③の書類点検を行う。  
(必要に応じて提出書類等についての確認連絡や追加書類等の指示あり)。
- ⑤ RARA オフィス：申請者本人の金融機関口座（国内）に本奨学金を振り込む。

### 2. 対象者別の種類、支給額、支給回数上限（年次）

#### (1) 【対象者】修士課程、博士課程前期課程、一貫制博士課程（1～2回生）の在学生

種類	支給額(一律)	支給回数上限（年次）※ <sup>2</sup>
学会参加(オンライン参加 ※ <sup>1</sup> )	5 千円/回	4 種いずれかで <u>年次 1 回まで</u>
学会参加(現地参加 ※ <sup>1</sup> )	1 万円/回	
学会発表(オンライン発表/誌上開催 ※ <sup>1</sup> )	1 万 5 千円/回	
学会発表(国内現地発表)	3 万円/回	<u>年次 1 回まで</u>
学会発表(国外現地発表)	10 万円/回	

#### (2) 【対象者】博士課程後期課程、一貫制博士課程（3回生以上）、4年制博士課程の在学生 (学振特別研究員・RARA 学生フェロー採択者は対象外)

種類	支給額(一律)	支給回数上限（年次）※ <sup>2</sup>
学会参加(オンライン参加 ※ <sup>1</sup> )	5 千円/回	4 種いずれかの組合せで <u>年次 2 回まで</u>
学会参加(現地参加 ※ <sup>1</sup> )	1 万円/回	
学会発表(オンライン発表/誌上開催 ※ <sup>1</sup> )	1 万 5 千円/回	
学会発表(国内現地発表)	3 万円/回	<u>年次 2 回まで</u>
学会発表(国外現地発表)	10 万円/回	

※<sup>1</sup> 開催地問わず

※<sup>2</sup> 「9月入学者」の場合、当該年度の9月26日～翌年度の9月25日が年次ごとの申請回数上限の計上期間となる。翌年度の申請方法や提出物は翌年度の募集要項を確認すること

※ 参加・発表する学会に対して、どの種類の奨学金を利用するか自身で計画的に申請すること。申請後の変更はできない。

### 3. 申請資格

学会参加時と申請時の学籍状態が「在学」か「留学」である本学正規課程の大学院生  
(専門職学位課程在籍者、学振特別研究員および RARA 学生フェロー採択中の者は対象外)

#### 4. 補助対象期間：2026年4月1日～2027年3月31日に開催される学会

- ・上記開催期間に開催される学会に限り、当該年度内に申請可能。  
(年度をまたがって開催される学会の場合、学会の開催初日が属する年度に申請すること)  
ただし、当該年度に修了を予定している学生は修了日が補助対象期間となるため、「6. 本奨学金の申請可能期間」を参照の上、期日内に正しく申請すること。いかなる理由であっても修了後の申請は受け付けない。
- ・ 参加・発表した学会の閉会日から30日以内に必要書類を揃え、指導教員に承認依頼すること。
- ・ 事務局より差戻された申請は、差戻し日から14日以内に、指導教員に承認依頼すること。

#### 5. 申請の方法 (Ri-SEARCH システム)

「立命館大学若手研究者学術・キャリア情報検索システム (Ri-SEARCH)」に Rainbow ID でログインし、下記の手順で電子申請すること。(詳細はマニュアル確認のこと)

<URL> [https://www.ritsumei.ac.jp/ru\\_gr/g-career/research/](https://www.ritsumei.ac.jp/ru_gr/g-career/research/)

「研究業績の編集 (研究業績の編集ページへ)」に進む。

→①研究業績【業績項目】の「学会参加・発表」に参加・発表した学会を新規に登録。

→②学会奨学金申請【奨学金・助成制度申請】画面にて必要項目を入力し電子申請。

#### 6. 本奨学金の申請可能期間

**2026年4月1日～2027年2月26日 17:00**

経理手続きの関係上、年度末の1か月前に申請受付を終了する。**3月に開催予定の学会に参加・発表する者については以下の「事前申請」手続きを行い、3月の参加・発表し帰着後速やかに残りの手続きを完了すること。**

##### ■「事前申請」前後のフロー■

- ①当該学会での参加・発表が確定次第、  
**3月開催分は2027年2月26日 17:00までに**、学会参加・発表後でないと提出できない書類を除いて Ri-SEARCH システムにアップロードし**電子申請 (事前申請)** する。
- ②学会参加・発表して帰着後**3日以内 (※)** に、  
学会参加・発表後でないと入手できない書類や事前申請時から変更が発生した書類を Ri-SEARCH システムにアップロードし**電子申請 (追加の申請)** する。  
(※修了日以降は Ri-SEARCH システムへログインできなくなるため、必ず修了前に残りの資料を提出すること)

#### 7. 支給日

申請受理日※より約2か月以内を目処として、**本人の銀行口座 (国内)** に振り込む。

※ RARA オフィスにて受理した日をいう。夏期休暇等事務室の閉室期間にまたがる時は、閉室期間は受理日から支給日までの日数に含まない。

※ 他の予算と合算する場合は、この限りではない。(「12.その他特記事項」の記載参照)

#### 8. 奨学金の対象となる学会・ならない学会

以下「対象」の全ての条件を満たしていることを証明できるものを、学会発表奨励の対象とする。(学会参加奨励の場合は、以下「対象」の②、③を除く)。

対象	① 学会(学術団体)が主催、共催、後援等をしている。 または、申請者の指導教員が、学会と同等であり申請者の研究業績につながると認める。 ② 研究成果の発表を残しており、それを提出できる。(ポスターやスライド等) ③ 自身の研究成果を第三者に口頭で発表している。 ④ 自身以外の研究成果発表を聞く機会(研究交流ができる状態)がある。 ⑤ 併用予定の奨学金・助成金側で、他の奨学金(本奨学金)の併用を制限していない。 (例: 研究科独自で学会参加・発表の奨励を行う制度を設けている場合あり、相手側(研究科独自奨学金側)で二重受給を不可にしているケースがあります)
対象外	① 本学学生を中心とした組織が学内で行う自主的な勉強会。 ② 自己研鑽・自己啓発を目的としたセミナーやプログラム。 ③ 自身の研究を資料展示・配布しか行わなかった(主催学会が誌上開催に変更した場合を除く)。

## 9. 提出書類について

提出書類 (全てアルファベットを付して A4 サイズで提出)		参加	発表
A	学会の案内・プログラム等のコピー(学会名、開催地、会場、日程記載)	○	○
B	学会で発表したことが分かるもの(発表者、発表テーマ、発表日記載)	/	○
C	発表資料(当日の発表に利用したポスター、スライドなど)	/	○
D	学会(参加・発表)証明書	○	(○)

※他の予算と合算する場合は、学会発表・参加前に合算先に確認し、その求めに応じて必要書類(下記)を提出すること。また、支払い手続きが完了するまでは、領収書・航空券の半券などは破棄しないよう注意すること。

(その他合算先から必要と求められる書類の例) 学会の会場の地図、学会登録料・参加費の領収書、学会登録料・参加費の領収書の明細がわかるもの、航空運賃領収書、搭乗券の半券、など

## 10. 提出書類に関わる留意事項

- ✓ 提出書類は**全て A4 サイズ**にしてスキャンしてファイル添付のうえ提出すること。  
(40MB 以下にすること)
- ✓ カラーである必要はない。

### (1) 学会の案内・プログラム等のコピー (A)、学会で発表したことが分かるもの (B)

- ✓ プログラム原本や学会の WEB サイトの該当部分を A4 サイズで提出すること。(プログラム冊子の提出は不可。必ず該当部分のみスキャンして添付すること。)  
該当ページに、①学会名、②開催地、③会場、④開催日、⑤報告者、⑥報告テーマ、⑦報告日、が記載されているか確認し、⑥⑦については該当箇所をマーカー等で示すこと。

### (2) 発表資料 (C)

- ✓ タイトルと発表者氏名、学会名、日付を明記し、「学会で発表したことが分かるもの (B)」と一致させること。
- ✓ 資料が A4 サイズ複数枚に渡る場合は、一般的に読み取れる範囲で、A4 サイズに縮小・集約印刷した PDF 等のファイルを提出すること。

### (3) 学会 (参加・発表) 証明書 (D)

- ✓ 「学会参加」および「ハイブリッド学会※ (現地参加)」の場合のみ証明書 (D) として、当該学会へ参加したことがわかるもの (例：下記①～③) を提出すること。

①学会の参加票・名札、②学会が発行している参加証明書、③学会に参加したことがわかる写真 (学会の立看板と一緒に写っている写真、発表している様子の写真など、申請者本人が写っているもの)

※ハイブリッド学会：現地開催しつつオンラインでも参加・発表できる学会のこと。

## 11. 2026 年度に修了予定の方へ (学会の開催期間などに関する留意事項)

2026 年度に修了予定の方は支給の対象となる学会の開催期間・申請できる期間が異なる。

	2026 年 9 月 修了予定		2027 年 3 月 修了予定	
	学会の開催期間 (※1)	申請できる期間	学会の開催期間 (※1)	申請できる期間
前期課程 学生	9 月 23 日まで (※2)	8 月 31 日まで	3 月 20 日まで (※2)	2 月 26 日まで
後期課程 学生	9 月 25 日まで	8 月 31 日まで	3 月 31 日まで	2 月 26 日まで
備考	9 月に開催される学会は事前申請 (※3)		3 月に開催される学会は事前申請 (※3)	

※1 上記「学会の開催期間」をまたがって開催される学会に参加・発表する場合は、事前に RARA オフィスまで相談すること。

※2 翌学期に本学博士課程後期課程・一貫制博士課程 (3 回生以上)、4 年制博士課程に学内進学する者のうち、9 月修了予定者は 9 月 25 日まで、3 月修了予定者は 3 月 31 日まで可とする。

※3 事前申請をした場合は、学会参加/発表から帰着後すみやかに学会参加後でないとして入手できない書類や、事前申請時から変更が発生した書類を電子申請すること。(9 月修了予定者向けには 7 月中旬を目途に、3 月修了予定者向けには 1 月中旬を目途に、Ri-SEARCH 上で事前申請可能となるよう設定予定)

## 12. その他特記事項（学籍、研究費との合算、など）

申請者が下記に該当する場合は、申請にあたり RARA オフィスへの事前の確認・相談が必要になる場合があるため、留意すること。

### (1) 学籍状態や申請時の身分などに関する特記事項

#### ① 2027 年 3 月までの期間で休学・退学になる場合

→ 在学でなくなる日の 1 か月前までに電子申請すること。

**【休学を検討中の方へ】休学中に参加した学会は申請対象外となる。また、在学中に参加した学会の支給申請を休学後におこなうこともできない。**

※年度を跨って開催される学会の場合、次年度に修了・休学等で在学していない場合は、支給の対象とはならず申請できない。

※2027 年 3 月までに休学を申請する場合、その申請前（遅くとも休学許可される見込みの 1 か月前）までに本奨学金の申請を行うこと。

#### ② 協定にもとづき留学する場合（学籍状態が「留学」）

→ 滞在地での学会参加は、「国内学会」参加とみなし、奨学金を支給する。

#### ③ 学籍状態が「留学」で申請の場合 もしくは 学籍状態が「在学」のまま留学している場合

→ 電子申請前に RARA オフィスに相談すること。

#### ④ 社会人の大学院学生で、過年度の研究活動の関係上、本学以外の所属企業・機関名義での研究成果発表が必要な場合

→ 申請の学会参加、発表にあたって、所属機関等本学以外からの補助が重複しないこと（重複支給はできない）を条件に認められる場合があるので、事前に RARA オフィスに相談すること。

→ ただし、可能な限り、「立命館大学大学院学生」の身分がわかる状態で、各学会に参加、発表するようにすること（学会に登録する所属や、発表資料に記載する所属、領収書の宛名を本学にしていること）。

### (2) 研究費との「合算」「併給」に関する特記事項

#### ① 政府系機関や企業からの奨学金を受給している場合

→ 支給条件等により申請（給付）ができない場合がある。

必ず奨学金支給先で併給可能かどうかを事前に申請者自身が確認すること。

#### ② 他の研究費等と合算して執行する場合

→ 「学生学会奨学金」としては、他の研究費と合算利用は可能。

ただし、合算先の資金の要件で併給が制限されている場合は不可となるため、事前に指導教員に確認すること。

**※なお、本奨学金はその趣旨・規程を踏まえ、基本的に大学院生個人に支給するものだが、指導教員と大学院生との間で事前合意ができている場合は、指導教員が指定する研究費への振替対応を行う。（大学院生個人宛てに本奨学金は振り込まない）  
本奨学金申請予定者は、指導教員に研究室での運用ルールを事前に確認すること。**

### (3)その他

①海外留学や母国への帰国などで、銀行口座(国内)を閉鎖する予定がある場合

→RARA オフィスに事前に相談のうえ、遅くとも口座が利用できなくなる2か月前までには電子申請すること。

②一つの学会内で「発表」し、別日程・時間帯などで「参加」した場合

→「学会」単位での支給となるため、「発表」もしくは「参加」いずれかで支給する。

### 13. 個人情報の取り扱いについて

①申請書類等の提出書類は支給手続き事務のみに利用します。なお、提出書類は返却しません。

②申請書類等より取得した個人情報は、支給手続き事務以外の目的には利用しません。

### 本奨学金問合せ先

立命館大学 研究部 RARA オフィス (大学院キャリアパス) 学生学会奨学金担当

TEL : 075-813-8560 / E-Mail : [g-scholl1@st.ritsumeit.ac.jp](mailto:g-scholl1@st.ritsumeit.ac.jp)

※土日祝日、長期休暇を含む業務時間外の問い合わせについては、回答が遅くなります。